



『コスモス』 中村修三 1994年9月

編集後記	「花やしき」山宣資料室通信(一)	文政の一揆と丹後の民衆(二) —江戸期の丹後ちりめん史を背景にして—	私のミレー書房時代	忘れられた存在・徴用工
燎原文芸	小田切 明徳	川戸 利一	清水 新一	瀬野 尚憲
黒住 嘉輝				

## 忘れられた存在・徴用工

瀬野 尚憲

これは、確かに記録に基づいたものでなく、当時三十才台であつた私の記憶によるものですから、間違つた点があるかもしれません。しかし不思議に鮮明な記憶となつて残っています。

……  
「徴用工」という言葉をご存知の方、いらっしゃいましょうか。日中全面戦争以来、日本軍は中国では大都市や鉄道は確保したもの、沿線や奥地は中国軍のゲリラ戦術に悩まされ、北・中支の戦線は泥沼状態に陥っていました。またA B C D (アメリカ・ブリテン・チャイナ・ダッチ) 包囲網のなかにあって、南方も膨大な兵員を必要としていた時、国民総動員が発令されました。健康な青年男子は悉く召集され、軍需工場も人員不足となりました。太平洋戦争で日本敗色濃厚となつた一九四四年

(昭和十九年)、学徒動員と同時に、召集を免れていた人たち、それは小売店や小工場の旦那さん、飲食店の親爺さん、散髪屋さんなど多彩な顔ぶれの人たちが「徴用」されました。

舞鶴では三ヶ所、肥沃な田地が、またたく間に造成され、徴用工の宿舎となりました。舍監は退役・海軍兵曹長。軍隊内務班のような残酷なイジメはありませんでしたが、皆、今まで自由な暮らしをしていました人たちはばかり。精神的にも肉体的にも弱い人たちが多く、また舞鶴という不順な気候に適応しきれない人もありました。しかし食糧だけは、軍部の関係で増配がありましたので、表面的には栄養失調にならずに暮らしていたようです。

私は二つの宿舎の健康管理をしていました。夕方になると、診療所は満員。それこそ現在の「三分診療」の先駆だったともいえます。お粗末な診察で、時に重大な病気を見逃したこともあります。多くは、「疲れ」で、休業診断書が欲しい人たちでした。私は、できるだけ診断書を出すことにしていましたが、全部の人を休

が、フランス語のguerreから、ゲートルと呼んでいました)を巻いて、隊伍を組んで通います。歩き慣れない人たち、その上工場では重労働か雑役、まごまごしていく、余り役にたたなかつたようです。先輩の工員からは「何や徴用工か」と蔑まれることもありました。

総じて徴用工にとっては、精神的にも肉体的にも、苦しい生きがないのない生活だつたのでしょうか。なかには「召集令状」を手にして、かえつて喜び、周囲からは「おめでとう」といわれ、嬉しそうに勇んで宿舎を後にする人も若干ありました。これから考へても、徴用工の多くは屈辱感を抱いていたのではないか。

院長は現役の軍医大佐、週一回、院長と医員の昼食会がありました。その席上で、院長は私の方を振り向くもしないで、

工廠の主任が云つていましたが、瀬野先生のところへ行くと、簡単に診断書を書いてくれるという噂がひろがっているそうです。

私は人生経験も浅く、苦勞知らず。今だつたら笑つて聞き流したでしょうが、その時は院長の陰湿さに腹をたて、昼食もとらずに席を立つてしましました。軍部から見れば、「一億火の玉」となつて、戦争に協力しなければならない時代、私の行為は「非国民」とみられても仕方がなかつたのでしょう。

キヤハ 宿舎から工場まで二～三キロ、脚半(軍隊用語で、私たちも中学時代、脚半姿で通学していました

ませるわけにもいきません。当然不公平は免れませんでした。戦後、土地の人から「診断書を書いてくれなかつた」と、文句を云われたこともあります。

私の勤めていたのは、海軍工廠の付属施設で、「舞鶴海軍共済病院」と云い、現在の共済病院の前身でした。ここに勤めましたのは、生まれた土地というよりも、海軍の嘱託として、陸軍の召集を免れたからです。

辞職勧告もなかつたことを思うと、任官しているわけではなく、単に嘱託である上、陸軍と海軍の若干の差があつたのかもしれません。グアムが占領され、日本全土がB29の爆撃範囲に入った頃、高浜に「診療所」が設立されました。

当時のX線写真はばやけていて、精確な診断は不可能でした。私は、できるだけ「肺浸潤」という「病名でない診断」をつけて、診療所へ送る手続きをとりましたが、当然不公平は免れませんでした。

……三……

私は賀川豊彦さんのように、人類愛に燃えて、弱者に味方したわけではありません。中学時代、早く世した兄の書棚のなかの厨川白村のたしか『近代の恋愛観』の影響を受け、高校時代、○×だらけの『反デューリング論』などに目を通しましたが、結局は何も分からなかった記憶があります。何れにしても付け刃で、戦争体制に反対して闘う精神力もなく、結局のところ「世間なみの平凡な人間」ところ「世間なみの平凡な人間」として、自己本位に生きてきた「ザコ」の一人でした。唯、他人と違っていたのは、「天皇」も「ただ

の人」と思い、軍人のあり方に腹を立て、戦争反対だったことでしょう。そして「こんな馬鹿な戦争で死んで堪るか」が私の心の底にありました。然し、封建的な大家族制度のなかで育つた私の心の底には、竹内好（名が間違っているかもしれません）の云う「内なる天皇制」をもつてゐる古い型の人間だったのでした。当然「徴用工」に対し差別意識がなかつたとは、言い切れません。

それにしても「徴用工」とは、どんな存在だったのでしようか。

軍上層部の考え方は一貫したもの

ではなかつたようです。基本的に東郷平八郎の極端な精神主義を下級者に押しつけ、ノモンハンの教訓を活かすことなく、多くの有益な青年を死に追いやりました。

しかし、彼ら上層部軍人の精神が如何に自己的で脆弱なものであるか、私はこの目で見てきました。

結局のところ、総動員令で国民に押しつけた犠牲の一つが「徴用工」だったのでしよう。彼らは「数」をそろえて恬然としていました。

そのころ、召集された新兵たちは輸送船の底につめこまれ、外地へ送られる途中、潜水艦の魚雷攻

撃で多数死亡しています。舞鶴へのB29の爆撃は工廠へ一回だけで、十人前後犠牲者を出していますが、他都市に比べると、再々防空警報はなりましたものの、安全な地域

で死んで堪るか」が私の心の底にありました。然し、封建的な大家族制度のなかで育つた私の心の底には、竹内好（名が間違っているかもしれません）の云う「内なる天皇制」をもつてゐる古い型の人間だったのでした。当然「徴用工」に対し差別意識がなかつたとは、

（せお・なおのり）

## 私のミレー書房時代

清水 新一

一九五〇年のレッドページで失業中の私に、「本屋の仕事がある

がやってみないか。」と電産の仲間から話があつた。

本屋ならいっぽい本に囲まれて仕事が出来る。いろんな本が読めて楽しい仕事ではないか、と思い、早速面接に行つた。

当時、ミレー書房は四条小橋下がる西側の、小さな喫茶店フランソワの隣で、間口一間半ぐらいの小さな本屋であった。経営者はフランソワの店主で、立野正一さん

という人が出資して出来た本屋であつた。立野さんは、インテリ文化人と言うタイプで、前進座の後援会を腰巻と言わざるタイトルを読

やつていて、河原崎長十郎がよくやつてきた。

ミレー書房の店長は永良巳十次さんという60才絡みの人であつた。永良さんは「労働条件は厳しく、勤務時間は長いし、給料も安いが、よかつたら来て欲しい。」と言われた。月給三、五〇〇円であつた。物不足の時代には慣れていたので私はすぐにO・Kした。

本屋も面白いところがあるかも知れない。色々新しい本が読めるのが魅力であつた。しかし、実際に仕事をすると、外から見ているほど楽なものではない。次々に毎日出版される新刊を見ると、本の

むだけで精いっぱい、ゆっくりと内容まで目を通すことが出来なかつた。しかし、お客さんに読んでもらうためには、自分もその本を読んで、感動を込めてお客さんに伝えなければ、商売にならない。

ミレー書房は唯の本屋ではない。「我々は社会進歩のための革命思想の宣伝家なんだ。」こんなうぬぼれとも、自己満足ともつかない思いがあり、本が売れなければそれなりに割り切つて、読まない人が保守なんだ。と決めつける自己満足があつた。所謂武士の商法である。棚に並んでいる本はプロレタリア文学や、社会主義革命の思想の本が中心で、たまに漱石や藤村、芥川、太宰などの本が来ると、あれはブルジョアだからアカンといつて棚のすみに追いやつてしまふ。そんな本屋であつたから利益が上がらない。そんなある日、家主の立野さんから、ミレー書房を移転して欲しい。と言う申し入れがあつた。オーナーに言われては致し方がない。移転する場所を探した。

## ミレー書房の移転

一九五二年、熊野神社を西へ約入れて、毎日労働組合廻りを始め

二〇〇メートルの所に、加藤さんと言ふ履物屋さんがあつた。隣の小さな店舗を借用することになった。

加藤さんは好意的にミレー書房の移転に力を貸して下さつた。永良さんと二人で自転車にリヤカーをつけて、本をいっぱい積み、四、五日かけて運び込んだ。左翼本屋のミレー書房も、一般の週刊誌や、ブルジョア小説なども並べるようになつた。本屋はやはり立地条件が大切である。人通りが多いこと、乗物の便利がよいこと。近くに病院のような施設があり、人の動きがあるところである。

熊野神社の北には三一書房の社長が経営する熊野書店があり、京大病院にも近く、立地条件は最高であった。我々新参者には歯が立たなかつた。そこで考えた戦術は、労働組合訪問であつた。しかし、一九五〇年の企業からのレッドバージーに続いて共産党の五一年綱領の誤りで、労働組合は社民幹部の支配が強くなつて、簡単には入れなくなつていた。

右から左までの色々な系統の週刊誌や単行本を自転車のボデーに入れて、毎日労働組合廻りを始め

た。お得意さんの島津や日電、日本新薬、日本レースなどへも一冊の雑誌でも届けるために労力を惜しまなかつた。民主団体の集会があると聞けば本を積んで駆けつけた。「ミレー書房はアカの本屋や」、これは労働者中に浸透して行つた。一九四八年の中国革命の成功は、本屋の世界にも大きな影響を与えた。『毛沢東選集』や、『劉少奇選集』、朱徳の長征を描いた岩波の『偉大なる道』などに人気があつた。この頃、『レーニン(二巻)選集』や『スターリン全集』などが出版された。中でも驚いたのは、『ソ同盟共産党史』であつた。日本語で印刷した、あのぶ厚い大きな本が一〇〇円で入つてきたのである。

書籍活動を通じて革命思想を宣伝しよう。我々は社会進歩の担い手である。こんな思いを自分に言い聞かせて、毎日の売り上げ金を勘定するのであつた。活動範囲を広げるため、もう一人の活動家を入れることになつて、徳井君と言ふ青年がやって來た。彼は誰にでも人なつこく話しかけて商売人に向いていた。よく売れた本に三一書房発行の詫び状を書いて、一件落着とな

た。『毛沢東選集』があつた。これは中国革命の主力になつた労働者や貧農にもよく分かるように、平易な言葉で書かれている。『毛沢東選集』がよく売れたので、つい他の出版社の買掛金の支払いにまわしてしまつたり、給料に支払つたり流用したので、三一書房の支払いが遅れがちになる。月末に三一書房の副社長がやつてきて、「ミレーはよく売れているじゃないか、それになぜ支払いが遅れるんや」、凄いんまくで机に足をかけて怒鳴つた。店長の永良さんは「すまんが、もう一週間待つて欲しい。」と願つても、竹村副社長は「ダメダメ」と大声で怒鳴り散らした。温厚な永良さんもカツとなつて返答ができない有様だつた。聞いていた私も、「そんなに人を信用できないのか。君の態度は何だ。やくざじやないか。」と言つた。すると、彼は益々興奮して「若僧がなにを言うか」と殴り掛かつて来たのである。私は、これは危ないと、さつと表へ逃げ出したのである。さすがに彼も人目をはばかずつて追いかけては來なかつた。永良さんは竹村の指定した支払い日

(5) 2001年9月15日

## 燎原

つたのである。このようなことがあつて、売上金を食い込まないよう、出版社ごとに袋に入れて現金を仕分けして、原始的な会計をやつていた。これを「袋財政」と言つていた。

ミレー書房の分裂

この時期に仲間の本屋として、京大の近くにイスクラ書房があつた。百万遍を東に行つた所に本田君と言う若者が本屋を開いていた。ここは大学生がお客様で、経営は厳しい。一人で仕入と販売、店番では、長時間労働と資金ぐりが大変であった。彼は出版情報をよせてくれた。本屋の願いは繁華街に出で大きな店舗を持つことである。

行商の本屋に天勝さんと言う人が居た。本名天野勝治。彼も本屋仲間の情報をよく掴んでいた。そんなときに河原町の蛸薬師に良い場所があるので、ミレーをここに移してはどうか。と言う話が持ち上がつた。それは良い話だ。しかし資金はどうするのか。書籍活動家と称する人たちが集まって会議を開き、資金を出し合つて会社組織を立ち上げ、経営することにな

ったが、ここでは主義主張の違いが、大きな障礙となつて、ミレー書房の統一はできなかつた。

そもそも、ロシア十月社会主義革命で始まつた、共産主義運動は、トロツキーと言う人物によつて、運動が失敗した経験から、トロツキズムと言われた。書籍活動家のなかにも当時学生運動に影響を与えたトロツキズムに支配されていた連中が資金力にものを言わせて、立地条件の良い蛸薬師の店舗を手に入れたのであつた。そのため、ミレー書房は二つに別れてしまつたのである。現在は四条大宮にあるのが本家とも言うべきである。蛸薬師のミレーには週刊誌や雑誌などは目につくが、左翼本屋のイメージは全く無い。その後のことについては、現在の人達に語つて頂くことにしたい。

(しみず・しんいち)



が、丹後ちりめんと問屋制の統一はできなかつた。

そもそも、ロシア十月社会主義革命で始まつた、共産主義運動は、トロツキーと言つて、

## 文政の一揆と丹後の民衆(二)

—江戸期の丹後ちりめん史を背景にして—

川戸 利一

### 丹後ちりめんと問屋制

丹後ちりめんは、問屋制度とともに、新しく台頭してきた商業資本である京都の問屋の支

すびついて発展した。それ以前の織物は、主として藩内の養蚕と製糸を土台にして発展し、藩内で生産される生糸の数量に依存した自給自足の家内工業にすぎず、京都の問屋とのとりひきは一部の絹織物に過ぎなかつた。

西陣の大火灾がうみおとした丹後ちりめん産地は、藩内の養蚕によって作られる生糸ではとうていまかないきれず、糸問屋による生糸の供給と、糸問屋によるちりめんの販売があつてはじめて、ちりめん産地としての生産活動を可能にした。

言いかえると、丹後ちりめんは、次第に発達した貨幣経済がもたらした商品の流通と、これによつて蓄積された商業資本である問屋制度が作り出した、問屋制手工業としての性格をもつてきた。このた

め、丹後ちりめんは、その生成と発展の過程で、新しく台頭してきた商業資本である京都の問屋の支

配を受けるとともに、問屋も又、丹後に依存して商業活動を維持する関係になつてゐるのである。

生糸の供給をおこない、ちりめんを販売することができた京都の問屋は、丹後の仲買人や产地問屋、

ちりめん飛脚を巧みに利用して、糸価やちりめんの買い取り値段をあやつり、利益の拡大をはかつた。

ちりめん飛脚は、織りあげた丹後ちりめんを京都の問屋におさめて代金を受取り、糸店に寄つて糸を買い、丹後の機屋に生糸を届ける必要から生まれた仕事であるが、多額の金品を扱うため、信用のある百姓が飛脚請負保証金を積んで飛脚の許可を受け、一年又は三年で請負証文の更新を行つて仕事を継続しなければならなかつた。

ここまでして飛脚を厳選しても、

飛脚はちりめんや生糸の商いに手を出し、問屋に納入するちりめんの抜売りや横流しを行つて、内緒で金儲けに走つた。京都の絹問屋は、飛脚を利用して代金の支払いを故意に遅らせて機屋の資金繰りを困難にし、投げ売りに出るのを待つて買い叩いた。京都の問屋は、仲買人や産地問屋に原糸を供給し、ヤミ機に織らせたりめんを投げ売りさせて市場価格を下げ、暴利を貪ることもした。

一方、丹後のちりめん産地の形成で、おびやかされる立場になつた西陣の機屋は、丹後ちりめんの出荷を規制するよう幕府に嘆願し、

京都所司代から数量制限の達しがでたにもかかわらず、丹後ちりめんの流入が止まらなかつた。

西陣の機屋は、明和六年（一七六九）糸問屋と計つて丹後への原糸の供給を停止するという非常手段に出た。原糸の供給をすべて京都の問屋に依存していた丹後の機屋は、この非常手段に困窮した。

かねがね、丹後に進出する機会を伺つていた近江商人は、丹後に原糸の供給を申し出、これを受け入れた生産が始まった。近江商人は、奥州や上州まで生糸の買取り

を広げたことから、京都の生糸は品不足で高値を呼び、近江商人は買い占めた生糸で利潤を貪つた。このため、丹後も糸価の高騰に耐え切れず、一年半で西陣機屋の年行事に和議による解決を申し入れた。

西陣は、糸の買い入れを京都の糸問屋に限るとする掟を要求して引かず、丹後はこの申し出に屈して、生糸も京都の糸問屋の独占的支配を受けることになった。西陣は、和議の掟に「新規に機数増長不致候」の項目を入れることも要求し、機台数の増加を制限することまで付け加えた。

一方、丹後の機業は、京都の絹問屋や糸問屋の支配下におかれ、問屋制のもとでの商いにくわえて、ヤミ機やヤミ売りを利用したりめんの買い叩きや、飛脚を買収して代金の支払いを引きのばし、資金繰りにつけこんだ安値買いなど、問屋の手段を選ばぬ商いに苦しんだ。このような問屋による不当な商いは、産地の結束をうながし、峰山、宮津藩と天領地である久美浜の機屋が一体となつて自衛措置を

講じる必要にせまられた。

宮津、峰山、久美浜の三領の代表が集まり、問屋にたいする対策を相談することになった。この相

談を「大会」と呼び、相談の場所である「大会所」を口大野村に置いた。「大会」では、三領合体の取締機関を設けることや、三領内のヤミ機を根絶し、ちりめんの粗製濫造を無くして品質の向上をはかり値崩れを防ぐことを申し合わせた。文政三年（一八二〇）京都の問屋に対する要求も三領一致で臨み、製品はすべて丹後一体として売りさばくことを決めて領内の機屋に回状を廻し徹底をはかつた。三領が一体となつた対策で、西陣や室町の問屋に対抗しようとして結束したことは丹後機業の置かれている立場が生み出した当然の結果であるとはいえ歴史的なできごとであった。

岩滝を中心とした廻漕業と糸問屋を兼営する業者の中には、藩政と結託して特権をにぎり、三領の回状に従わざ無視しがちであつた。その背景は、六十艘余の船を持ち、遠く奥州まで航行してひそかに安い生糸を買、これをヤミ機で織りヤミ売りで暴利を貪ることので

きる機屋支配が確立していたためである。地元糸問屋の中には百二十台のヤミ機を動かす者もいたほどである。

当時、「全丹後に於ける生糸縮緬の相場は岩滝の政商によつて決まる」と言われるほど、業界を左右する力をもつていた。浅茂川のちりめん業も、廻漕業と地元糸問屋を営む浅茂川の商人と結びついて、岩滝と同じように急速な発展をとげていた。

廻漕業と地元糸問屋は、支配するヤミ機を使って三領大会の申し込みを無視してちりめんの生産と販売をおこない、三領の結束を不十分なものに終わらせる存在になつていたのである。

しかし、三領大会は、京都の問屋と対抗するため、「一筆啓上仕候、……就夫一統益後迄休機可仕と決談仕候。……」との回状であきらかなように、三領一体の一斉休機を行つて、糸相場の引き下げと縮緬相場の引き上げを迫ることをきめた。口大野村に大会所を置いて一斉休機による京都問屋との抗争に備えた。丹後機業はじまつて以来のゼネストとも言うべき戦術を申し合わせ実行したのである。

この戦術は、奥州から、独自に生糸を買い入れ、家老と結んで在方の機屋を支配し、ヤミ機によつてちりめんの生産を行つていた宮津城下や岩滝、浅茂川の地元糸問屋との利害が必ずしも一致しないばかりか、一斉休機でちりめんが品薄になり、ヤミ機によつてかえつて儲かることになつたため、申し合わせにそむいてちりめんの生産をおこない京都問屋に売り込んだ。

その上、ちりめん飛脚の内通者から丹後の実情をつかんでいる京都の問屋は、一斉休機を問題にせず、「深く考遊ばされ度願上げ奉り候」などと軽くあしらひ、相手

情から一斉休機の戦術は不成功にてちりめんの生産を行つていた宮津城下や岩滝、浅茂川の地元糸問屋との利害が必ずしも一致しないばかりか、一斉休機でちりめんが品薄になり、ヤミ機によつてかえつて儲かることになつたため、申し合わせにそむいてちりめんの生産をおこない京都問屋に売り込んだ。

丹後の機屋が藩をこえて結束し、京都の問屋に要求をつきつけたことは、丹後の機屋の成長と自覚を物語るものであり、二年後、宮津藩で起きた一揆に発展する導火線となつた。  
（かわど・としかず 弥栄町）

「西口克巳の小説『山宣』を二回読みました」、「武器亡き闘い」感動して以来一度墓参をしたいと願つていました」、山宣劇を見た人、劇画知つた人達が、釧路から沖縄まで、まさに全国から山宣のお墓と「花やしき」を訪れています。今回は、近年の海外方の訪問者の様子をお伝えします。

年に一、二度はアメリカの日本研究をテーマにした学者をご案内しています。昨年は産児調節運動を調べている女性でした。カナダからはバンクーバーのリッチモンドから「ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館で山宣の名前を知りました」と記帳があります。平和運動に関心あるイギリスの方も、フランスの進歩的教育運動を進めている学者……。

山宣資料室はこれらの膨大な資料が東の蔵の二階に保管されていますことや、宣治さんファミリーの住んでいた「新宅」が北側にあり、その前の藤棚やアカシアの古木が

山宣時代を語つてくれていますから場所的にはなかなかよろしいと思います。非公開が原則でしたから、まず基本文献の公開を目標にして、前述の『山本宣治』全集の

## 「花やしき」山宣資料室通信(二)

小田切 明徳

編集を佐々木さんのイニシアティブで行いました。同時に写真集も出ました（多くは絶版ですが、写真集は再版、再編集の構想があります）。『産児調節評論』・『性と社会』の復刻版つくりにより基と結託して三領の申し合わせに従わず、百姓を苦しめていた悪徳業者の存在をうきぼりにした。

丹後の機屋が藩をこえて結束し、京都の問屋に要求をつきつけたことは、丹後の機屋の成長と自覚をして、宇治山宣会が『山宣』誌を発行しておりますので、訪れていただければお求め頂けます。これ以上の詳しい物が必要になれば、小田切までご連絡下されば、コピーサービス等の対応をさせていただきます。

山宣のお墓（元は、記念碑であったが、それでは官憲の許可が下りず、初めは石碑が横に置かれていた）にも、この資料室にも、全國から、「山宣まいり」のファンが絶えません。全国と書きましたが、実は、アメリカからも、最近も中国からの客人を案内していまます。お墓には名刺受けを用意しています。お墓には名刺受けを用意しています。お墓には名刺受けを用意してありますから、訪れた方がここを利用されていればどなたが来られた

のかがわかります。資料室には雑記帳を置いてありますのでその記録で知れます。その声は宇治山宣会発行の『山宣』誌にまとめようかと考えております。資料室に「一言、感想を」とノートを置きました。三冊がいっぱいになりました。

「西口克巳の小説『山宣』を二回読みました」、「武器亡き闘い」感動して以来一度墓参をしたいと願つていました」、山宣劇を見た人、劇画知つた人達が、釧路から沖縄まで、まさに全国から山宣のお墓と「花やしき」を訪れています。今回は、近年の海外方の訪問者の様子をお伝えします。

年に一、二度はアメリカの日本研究をテーマにした学者をご案内しています。昨年は産児調節運動を調べている女性でした。カナダからはバンクーバーのリッチモンドから「ブリティッシュ・コロンビア大学の図書館で山宣の名前を知りました」と記帳があります。平和運動に関心あるイギリスの方も、フランスの進歩的教育運動を進めている学者……。

昨年から今年にかけて、二回中國の方を墓前と資料室をご案内しました時の様子を少し紹介します。

その一人は、上海のSさんです  
が、彼の父はインテリであつたため文化大革命時代、大変な目にあい、彼も学校でいじめられ、一人地下室でバイオリンを弾いて時を過ごしていた事を上海の最後の日に話してくれました。私は対支非干渉同盟委員長であった山宣の宇治署拘留のことを話しました。来日したら是非とも山宣の墓前を紹介すると約束しましたので、この冬、宇治を案内しました。もう一方は南京のTさんでした。お二人とも共通して、昨今の歴史教科書問題や靖国参拝に見られる日本政府の動向を大変心配されていました。Tさんは「中国は平和を望んでいます。あと二十年、日本は平和憲法を守つて下さい。やがて中國も力をつけ、アジアの平和に貢献します」と真剣に訴えられました。こうして山宣のお墓と資料室は学術面と平和運動において貢献しています。四月から火曜日の午後、資料整理しながら、見学者向けの展示案内をすこし丁寧なもの用意しました。資料の整理は、一、二年かかりそうです。

(つづく)

## ◆燎原文芸◆

黒住 嘉輝

三度目の正直ならぬハプニング

「変人」小泉 総理となりぬ

背に腹は変えられず

純一郎を選びたる 族議員らの利権 桅子でも動かぬ

小泉が総理となるまでに

神通力 失せたり「黒幕」

伊予絹の一枚のシャツひと夏を

過ぎつつ 仇のように着るなり

手を回す 手強い 手を焼く

手に余る 手入れ 手を抜く

手に汗握る

足がつく 足許見られる

足を洗う 足を取られて

足並み乱れる

腰抜かす 腰落ち着かぬ

腰を据える 本腰入れんとして

腰がふらつく

鳥肌立つ 虫ずが走る 頭に来る

支持率八十五% 胸くそが悪い

野中広務も

「凡人」はお陀仏となり

「軍人」逝き「変人」ひとり

残りて「奇」を吐く

糠に釘 暖簾に腕押し「景気対策」

「構造改革」馬鹿の一つ覚え

虫がいい 虫が知らせる

虫が起ころ 一寸の虫にも

五分の魂

(くろずみ・よしてる)

## 編集後記

暑かった夏の記憶はあります、その暑さがこんなにつづいたおぼえはありません。ひょつとすると地球温暖化の影響かもしれないなどと考えると、暑さの中で背すじがヒヤッとなります。

暑さを一そう不快にしたのは、小泉総理の靖国神社公式参拝です。

八月十五日の予定を十三日にくり上げたなどというのは笑止の沙汰というほかありません。靖国公式参拝が違憲というのは、最高裁もが進行中と見えます。もう一つの

歴史を明らかにするために、わが「燎原」の役割もますます重要な意味になります。

韓国・中国の強い批判をおしきつて、総理大臣と記帳して参拝したとなれば、日本は法治国家といえなくなります。平和憲法があるといつてきましたが、もう内外のだからも信用されなくなるでしょう。古人いわく「信なければ立たず」。

会および会報については、左記へご連絡下さい。

[事務局]

〒六〇六一八一〇七

京都市左京区高野東開町

一一二三 第三住宅

三三一三〇二 井手 幸喜

TEL FAX ○七五七二二一三八二三